

発議案第3号

志賀原発と柏崎刈羽原発の廃炉を求める意見書について

上記発議案を別紙のとおり、白井市議会規則第14条第1項の規定により提出します。

令和6年3月22日提出

白井市議会議長 岩田 典之 様

提出者 白井市議会議員 根本 敦子

賛成者 白井市議会議員 徳本 光香

提案理由

志賀原発と柏崎刈羽原発の廃炉を求めるため。

志賀原発と柏崎刈羽原発の廃炉を求める意見書（案）

北陸電力の志賀原子力発電所は、2024年元日に石川県能登地方を襲った地震により、外部から電気を受けるための変圧器が壊れ、外部電源が一部使えなくなり、絶縁や冷却のための油が漏れ出したほか、使用済み核燃料プールのポンプも止まり、一時的に冷却が停止するなど複数のトラブルが発生しました。また、志賀原発周辺の116箇所の放射線量を測るモニタリングポストのうち、最大で18か所も測定不能となったことが原子力規制庁により報告されました。新潟県の柏崎刈羽原子力発電所においても、地震の揺れで使用済み核燃料プールの水があふれるトラブルが発生しました。

不幸にも原発事故が発生した場合の避難計画にも問題があり、輪島市や穴水町、志賀町などから最大15万人の避難を想定していましたが、道路が寸断された今回の被災状況を見れば、とても現実的ではありません。ひとたび福島第一原発のような事故が起きた場合には、多くの住民が避難できず、被爆してしまう可能性が高いことが浮き彫りとなりました。政府の地震調査委員会は、今回の地震では海底活断層が連動するなどして約150キロメートルの岩盤が動いた可能性を指摘しています。能登半島周辺で活断層が動き、想定を上回る揺れや津波、地盤の変化が原発を襲う可能性は否定できません。よって国に対し、志賀原発と柏崎刈羽原発の廃炉を求めます。

以上、地方自治法第99条の規定により、意見書を提出します。

令和6年3月22日

千葉県白井市議会

衆議院議長	額賀 福志郎 様
参議院議長	尾辻 秀久 様
内閣総理大臣	岸田 文雄 様